

広報 ほんじょう 11

HONJO CITY PUBLIC RELATIONS

2022 別冊版



七高祭
2022

本庄のまちの見かたを
リデザインする



リデザインする

本庄のまちの見かたを

七高祭が、形を変えて3年ぶりに再始動！

本庄市内7つの高校が合同で開催する「七高祭」は、2008年に行われた高校生によるまちづくりを考える「セブンハイスクールサミット」がそのはじまりです。その後、地元企業へ商品開発をプレゼンテーションしたり、合同で文化祭を開催したり、形を変えつつ14年間にわたり実施してきました。コロナの影響で、多くの学校行事が制限を受け、七高祭も2年間中止となりましたが、いよいよ今年、3年ぶりに7校が集まり開催します。

今年は、再スタートの意味を込めて「新しい七高祭に、リデザインしよう！」をテーマに掲げています。プロの動画クリエイター・デザイナー・フォトグラファーの指導のもと、広報紙や動画制作など、学校ではなかなか体験できないクリエイティブで面白いことに取り組んできました。加えて各学校の協力により、仮想空間で合同文化祭を行うこととなっています。

“本庄市内の高校に通っている共通点”だけで集まった、学校も学年も違う総勢49名もの高校生たちが、取材先へ連絡を取り、歩き、情報を集め、自分たちの目線で撮影・編集を行い、この広報紙と市を紹介する動画を半年間かけて制作しました。ご協力いただきました皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

それでは、次頁からは、全て高校生が執筆した記事です。どうぞ、お楽しみください！（本庄市広報課）



参加校（五十音順）

埼玉県立児玉高等学校

埼玉県立児玉白楊高等学校

埼玉県立本庄高等学校

私立本庄第一高等学校

埼玉県立本庄特別支援学校（高等部）

私立本庄東高等学校

私立早稲田大学本庄高等学院

仮想空間で七高祭が開幕！
さらにリアルイベントも開催！

12月1日（木）午前0時 仮想空間で七高祭を公開！

七高祭公式Instagramでカウントダウンをします！

仮想空間では、高校生が制作した動画のほか、各校の部活動の紹介動画なども公開します。市内の高校を知る良い機会ですので是非ご覧ください。

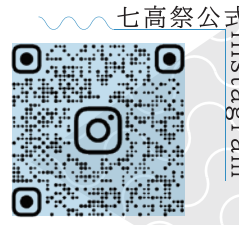
◎公開期間：12月1日（木）～12月31日（土）

また、高校生が制作したショートムービーは、七高祭公式Instagramで、ロングムービーは、本庄市公式YouTubeで、いつでもご覧頂けます。

12月11日（日）イベントを開催！

本庄駅北口の駅西通りを中心に開催されるマーケット「駅西通りデパートメント」に七高祭のブースを出展し、参加した高校生が企画した作品公開イベントを開催予定です。

（詳細は七高祭公式Instagram、本庄市ホームページをご覧ください）



七高祭
仮想空間
動画
はこちらから！
七高祭公式
Instagram

高校生の目線でリデザイン

本庄の7つの高校

の情報を取りざんする

私たち、高校特集チームは本庄にある7つの高校を色々な切り口から紹介していきますので、進路に迷う中学生も、絶賛現役の高校生も、大人の方々も楽しめる内容となっています。ぜひ新たな発見をし、本庄市について考えるきっかけにしてください。それでは一緒に七高を巡る旅へ出発しましょう！

児玉高校と児玉白楊高校

今年で創立100年を迎える、「児玉高等学校」。児玉町八幡山にある公立高等学校です。そしてその歴史をさらに上回る123年間続いている「児玉白楊高校」。こちらは児玉町金屋にある全日制の公立専門学科高等学校です。この2つの歴史ある高校で今、ある大きな取組が行われています。それは、この2つの学校が統合し新生・児玉高等学校を開設するというものです。

まず、この取組は埼玉県教育委員会が、中学校卒業者が減少する中、多様化する教育ニーズや高校の中途退学などの課題に対応し、県立高校の活性化・特色化を図るために行われるものです。今後の公立中学校卒業者を予測すると、12年間で約6万2000人から約5万6000人と、約6000人減少することが見込まれています。この少子化に対応するために、沢山の人が動いています。



児玉高校の校長である中山義治先生は、「今まで本庄市で行われた統合との大きな違いは、どちらも伝統校であるということだと思います。今まで培ってきた伝統を新校にも活かしていきたい。」と話され、2校合わせて223年間分の歴史がまった新校はどのような学校になるのか、期待が高まりますね。

そして、児玉白楊高校の校長の黒田勇輝先生からは「母校を大切に思っている卒業生たちのために、お互いの高校の良い所を合わせた学校を創っていきたい。」という言葉をいただきました。伝統を繋いできた卒業生も、これから繋いでいく新入生も誇れる高校になっていきそうです。

お二人が共通しておっしゃっていたのは、「この取組は『合併』ではなく、『統合』です。吸収合併をする訳ではなく、統合することによって、お互いのいい所をもっと発展させていくことを基本方針としています。」とのこととです。合併と聞くとあまり良いイメージが湧かないですが、今回の統合はより良い未来のための取組だという各高校の強い意志を感じました。

令和5年度からスタートする新校。どんな素敵な高校になっていくのかとても楽しみです。（小林鈴奈）

本庄市には特色を持つ7つの高校があり、それぞれの学校の校長先生にインタビューをしました！

中高生も、OB・OGの方々も楽しめる内容になっていきます。ぜひ「うんうん」と頷きながら読んでください！

―なすことによつて学ぶ―(児玉白楊高校)
 児玉白楊高校の校長先生、黒田勇輝先生は非常に親しみやすい雰囲気でした。「白楊高校の校長は日本一ハードルが低い校長だよ。」と先ず初めにそう言いました。黒田先生のお話を聞く中で、生徒との距離を縮めることをとても重要視されていて、普段から生徒とともに親しい関係を持っていることを「ハードルが低い」と表現されているのだとわかりました。このことを象徴するエピソードとして、年に4回、校長表彰という校長先生が生徒を表彰する機会があるそうです。自ら生徒を褒めて伸ばしていく。実習を重んじ、意欲的に学んでいく伝統的な姿勢は統合されたあとにも受け継がれていくことでしょう。

―「人間力」をみにつける―(児玉高校)
 児玉高校の校長先生、中山義治先生は生徒の理想像について熱く語ってくれました。

「人間力というのは…目標達成のために努力し、人とうまく関わり、感情を制御する、という3つのことです。このことは競技にも繋がってくることで、スポーツ科を備え、多くの部活動が強い児玉高校らしいものだと思います。体育科の教員になりたいと考えている中学生におすすめです。」

校長先生のおっしゃる3つの人間力が実を結んだため、東京オリンピック2020に児玉高校の卒業生である新井千鶴さんが出場したのでしよう。

―いのちみらいなかま―(本庄特別支援)

本庄特別支援学校長の山本典之先生は学校特有の話をしてくれました。「障がいの有無に関係なく高校生として関わるようにしています。」生徒と接する際には、身振り手振りを使ったり、ポイントをまとめてわかりやすく伝えたりすることで生徒達とのコミュニケーションを工夫されているそうです。名物先生のジョン万次郎先生は、学校のTV放送で頭にアヒルの被り物をかぶってお話をされるんだとか。山本先生は「自分が話しているときよりも生徒達はちゃんと話を聞いています。」とジョン万次郎先生について、笑いながらお話してくれました。毎日、素敵な先生方に囲まれ楽しい学校生活を送れていることが想像できますね。

本庄東 小林先生

本庄高校 松本先生

早稲田本庄 半田先生

本庄第一 山浦先生

本庄特別支援学校 山本先生

児玉高校 中山先生

児玉白楊 黒田先生



―影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。―(本庄第一高校)

本庄第一高校の校長先生、山浦秀一先生はとても話しやすい雰囲気でした。「本庄第一の生徒は非常に素直なんです。」生徒の印象について質問すると、山浦先生はそう答えてくれました。

中学生に向けてのメッセージを伺うと、「本庄第一は目標達成に向かって努力を継続することのできる環境が整っています。目標がなくてもそれを見つけられる環境が整っています。」と力強く答えてくれました。私も本庄第一の学生なのですが、生徒と先生が互いに協力しあって、様々なことを成し遂げることができ学校なのでおすすめです。

―自ら学び、自ら問う―(早稲田本庄)

早稲田大学本庄高等学院長、半田亨先生は「この学校は受験校ではないので、時間がたくさんあります。そのため自分のやりたいことがなかったり、主体的に物事に取り組む姿勢がなければ、退屈になってしまうかもしれません。」と、学校について説明してくれました。国際交流の機会や地域とのプロジェクトを多く用意しているので、他の高校とは一味違った印象を受けました。校内を案内していただきましたが、学校の雰囲気と同様に建物のデザインも高校とは思えないものでした。

― 伝統と躍進 ― (本庄高校)

本庄高校の校長先生、松本英和先生は本庄高校の伝統について語ってくれました。ご自身が本庄高校に当時通っていた時と雰囲気が違うかどうか質問した際、こう答えてくれました。「私が生徒だったときと雰囲気が変わっていません。校風という言葉がありますが、意図的に作り出しているわけではない空気感が今でも脈々と受け継がれていると思います。これは伝統の力かもしれません。」勉強にも部活動にも行事にも、「あれもこれも」と取り組む姿勢は過去から現在にまで流れている伝統の1つでしょう。取材の時、部活動の熱心に練習している音がよく響いていました。

― 心素直に、知性輝く ― (本庄東高校)

本庄東高校の校長先生、小林弘斉先生は「本庄東の生徒達はスケジュール管理がしっかりとできています。何時から何時まで勉強し、部活動に参加する、家に帰るのが何時頃でお家の方とお話をする。このことは学校自慢の1つでもあります。生徒は宝物ですからね。」本庄東の生徒は真面目である、というイメージはここから来ているのかもしれませんが、「時代の求める教育をこれからもしていきます。」とおっしゃるように、戦後から「時代の求める必要なこと」を教えるという創設者の意識が、まだ根付いているのでしょうか。(川上桔平)

7つの高校あるある

みなさんは日常生活を送っている中で、なんだか変わった出来事が起きていると感じたことはありませんか？私は高校生活を送っている中で不思議だけど、これ、よくあるなと思うことがあります。そこで、今回各高校の校長先生や在校生から聞いた「あるある」を私のツッコミを混ぜえながら紹介します。(木村友希)

..... 埼玉県立本庄高等学校のあるある

最初はバラバラだけど行事の前になるとみんなの気持ちが一致する
放課後、夏休みでも教室に残っている生徒がいる (勉強に対する意欲素晴らしいですね！)
中庭のベンチでお昼を食べている生徒がいる (外で食べるお昼は美味しいですよ！)
東門からの並木はクスノキなのに柏並木と言っている

..... 埼玉県立本庄特別支援学校のあるある

放送を予約して行っている (校内放送を決まった時間に放送されるように設定されているということです。)
給食のどこかに必ずにんじんが入っている (そんなことあるの？)

..... 埼玉県立児玉白楊高等学校のあるある

毎日農場に行ってるので暑さに強い
実習の緊張度が半端ない (そんなにキツイの？)
毎朝教室に入ったら QR コードを読み込んで健康観察を行っている (初めて聞きました！)

..... 埼玉県立児玉高等学校のあるある

みんなが元気で、全員が友達みたいなどころがある
体育祭、球技大会で体育コースが強すぎる！

..... 本庄東高等学校のあるある

青春できないと思ったら案外楽しい (よかったですね！)
学校の七不思議と呼ばれるものがある (ただの噂ですよ…)

..... 早稲田大学本庄高等学院のあるある

高校という感じがしない
どこまでが、早本の敷地かわからない (自分も実際取材しに行った時もどこまでが敷地かわからなかったです…)
元生徒会、生徒会長だらけ

..... 本庄第一高等学校のあるある

生徒が先生に相談しやすい (私も相談しやすいと感じています)
圧倒的いろはす人気 (ちなみに私のクラスのほとんどの生徒もいろはすを持っています！)
窓を開けると虫が入ってくる (網戸が欲しい！)

僕は七高祭で本庄市内の他の高校に通っている高校生と知り合ったのをきっかけに、他の高校に興味を湧き、それぞれの高校に通う高校生に「高校生活で最も充実しているものは何ですか？」というアンケートを取りました。

アンケートで最も多かった答えは、「行事」でした。各高校には特色のある行事がたくさんあるので、とても興味深かったです。特にみんなから人気があった行事は文化祭でした。僕は高校1年生で文化祭はまだ経験したことはないのですが、全力でクラスや部活の拠点を準備して、文化祭を楽しい思い出にしたいと思います。

次に多かった答えは、「1日」でした。これは授業や友達との日常そのものが充実している人もたくさんいて、高校生活のすべてが楽しいという状況がうかがえました。僕も今の高校生活がとても好きです。

次に多かったものは、「学食」でした。僕も高校の学食にとっても満足しています。入学当時はメニューの多さにとても驚きました。僕は本庄東高校に通っていますが、1番人気があるメニューはポテトです。ちなみに、僕のおすすめは「わかめうどん」です。

また「入学前と入学後で学校の印象は変わりましたか？」というアンケートも取りました。そこには「行事が少ないと思っていたが割と多かった」や「入学前は知らない所でやって行けるか心配だったけど今は人とも馴染めた」、「あまり厳しくない印象が変わった」、「入学後こんなにも充実した学校生活を送ることができるんだと気づけた」など一人一人違う印象があり、とてもおもしろく、また共感できました。(鹿島渉)

Q 高校生活で一番満足しているものは？

1位 行事

- ・意外と行事がたくさんあるから。
- ・色々なテーマに合わせて皆で協力して行うところが良い。



大体の先生が授業もわかりやすいし、面談も月一くらいのペースで、免学面の悩みはもちろんだ。なんでも相談に乗ってくれる。

やりたいことも出来たり、女子はほこ、興味のあることを友人たちと共有出来たりする。

先生がとても一生懸命な先生が多い。

Q みけさんはどんな1日を過ごしていますか？



先生に放課後質問できたり、休日に学校で自習できたりと、思ったより勉強できる環境が整っている。(本庄一)



文武両道で毎日が楽しい学校生活(本庄高)



楽しい先生がいるから日々色んなことを元気にしている。(本庄特別支援)



色んな行事があって楽しい学校生活です！(児玉高)



学食も美味しいし、楽しい学校生活を送っています。(児玉高)



すごい人に囲まれて、やりたいことも出来たり、好きなこと、興味のあることを友人たちと共有できたりする。充実した生活(早稲田本庄)



担任の先生が良い。クラス間の仲も悪くないし、部活も楽しいし、何より授業がわかりやすいし、楽しいし！卒業したくないです！(本庄東)

本庄市内の高校の行事

学校によって様々な行事があるのはとても大きな魅力です。

現役高校生のアンケートでも、高校生活が充実している理由として行事が一番多い答えとしてあったので、本庄市内にある学校の行事について調べてみました！

本庄東高校の「体育祭」は、毎年その時期になると体育の時間や休み時間にクラスで自発的に練習し、熊谷ドームで練習の成果やクラスの連帯感を確かめます。クラスの優勝のために、自分の得意競技でしのぎを削る姿はとても感動的です。

本庄高校の「新歓ハイク」は、4月下旬に、生徒会が考えたクイズを話し合いながら、シルクドームまで往復します。学年の垣根を超えたチームで行うので、学年関係なく親睦を深め合います。また、体育祭も新歓ハイクと同じチームで行います。仲良くなることより体育祭が楽しめそうですね。得点が高かったチームにはお菓子がもらえます。

早稲田本庄の「早慶戦観戦」は、明治神宮球場に集合し、東京六大学野球の観戦をします。スポーツ観戦を通してスポーツの楽しさを共有し、ワセダのメンバーとしての団結を深めます。友達とスポーツ観戦はとても楽しそうですね。



みなさんは、本庄の高校生の制服がどのようなものか？学食はどんなものか？気になったことはありませんか？私も他の高校にどんな制服や学食があるのか気になりました。そこで7つの高校の学食と制服について紹介したいと思います。

制服について、現役高校生のアンケートでは、本庄高校の「セーラーが可愛い」という意見がありました。またそれぞれの高校の制服に違いがあることに気がつきました。ネクタイやリボンなどの高校も色や形に違いがあります。特別支援学校はシャツの指定がなく、好きな白シャツを着ることができます。本庄東高校も、夏にはポロシャツを選ぶことができます。本庄高校の女子はセーラーとシャツを選ぶことができます。

学食については、本庄第一高校の「種類が豊富で美しい」「美しいし、バリエーションが良い」や特別支援学校の「栄養のバランスがいい」など、色々な意見がありました。そこで高校の学食の例をあげてみます。主食は、カツカレー、オムライス、カツ丼、牛丼、そばろ丼、ラーメン、うどん、ハンバーグ、唐揚げ、豚生姜焼き、軽食は、ポテトフライ、フライドチキン、たこ焼き、焼きそばなどです。バリエーション豊富でどれも美味しそうですね。

ちなみに、本庄東高校に通っている僕のおすすめのメニューは唐揚げ丼です。ガッツリ食べられてとても美味しいです。これからも美味しい学食をよろしくお願いします！（小田琳久）



本庄特別支援学校の「ハート祭（文化祭）」は、入場の制限はありますが今年度2年ぶりに全校一斉開催の予定です。小学部、中学部、高等部でそれぞれ出し物を準備して発表したり、バザーなどを行っています。小さな子でも楽しめるお祭りとなっています。小さい子が文化祭に参加できるのはとてもいいですね。

白楊高校の文化祭は「ポプラ祭」といって2日間にわたって開催され、初日には、ファッションショーやバンド、ミュージカルなどの公演があり、2日目には草花販売や学科展示が行われます。とてもユニークな文化祭で楽しそうですね。

児玉高校では「遠足」があるようで、バスなどで日帰りで様々な場所に行きます。修学旅行や体育祭、球技大会、芸術鑑賞会など行事が多いそうです。たくさんの行事があつて羨ましいです。

本庄第一高校の文化祭は「桐華祭」です。毎年9月頃に行われ、クラス展示を中心に、模擬店やステージ発表が行われます。今年は、歌うま決定戦が行われたそうです。のど自慢大会みたいでとても面白そうですね。1年生はスプリングキャンプがありクラスの仲間と仲を深める行事となっています。

魅力的な行事がある高校がたくさんありましたね。本庄市の高校をみんなが楽しんでいるのが行事からも伝わってきます。（磯田隼）

高校生にもうれしい

男子3人グルメチームです！僕たちは「高校生が行ける本庄グルメを探す」をテーマに本庄駅周辺の飲食店を巡りました。男子高校生ががっつり食べられるお店、学校帰りにふらっと寄れるカフェ、友達や家族と来れるお店などなど。ここでしか味わえない美味しい料理や楽しい時間を余すことなく紹介します！本庄の魅力、ご賞味あれ。

本庄の美味しいものを探そう



つみっこ / 色とりどりで見た目も味も良い



キーマカレー / 栄養バランスが良い

cafe NINOKURA



人柄がとてもよく毎日食べたいと思える食堂でした！



食堂モンキー



特製ハンバーグ！サラダもついてボリュームー！



カウンターに立つオーナー須永さん
とても親切で素敵な人でした！

食彩独歩 一喜

本庄駅から徒歩15分のところに、明治時代に建造された3つの蔵が並んでいます。私たちは、その真ん中にあるcafeNINOKURAさんを訪れました。2011年にオープンし、昔の蔵をそのまま利用しているお店です。蔵主の小林由美さんはレトロな雰囲気や、歴史があるものを使用したいという思いから、蔵を利用したそうです。小林さんのおっしゃった通り、店内の様子はとても落ち着いた空間で、居心地が良かったです。

NINOKURAさんのお料理は、地元の野菜を使用しているのも、とても新鮮です。また、主に味噌や醤油を使用していたり、本庄の郷土料理を出しているなど、こだわりがたたくさんあります。料理はどれも美味しく、野菜も摂ることができるので、一石二鳥です。本庄市の郷土料理の1つ、つみっこを頂きました。野菜の種類が多く、すいとんのような見た目をしています。モチモチと食感が良く、味噌の味もしっかりときいていて、本当に美味しかったです。また、高校生には色とりどりの野菜が使われていて栄養バランスも良いので、キーマカレーがオススメです。もう1つ紹介したいのが、地元で日常的に食べられている料理の1つ、ナピラ（納豆ピザライス）です。「納豆とピザは合うの?」と思うかもしれませんが、納豆とケチャップとチーズの味がマッチして美味しかったです。(井上祥太 写真:梶谷悠希・福島直太郎)

笑顔が絶えない食堂モンキー

本庄市にある飲食店を調べていた時に、食堂モンキーさんはオススメだよと教えてもらい早速伺ってみることにしました。食堂モンキーさんはご家族で営んでいる食堂です。

食堂モンキーさんの特徴はお客様同士や、店主とお客さんの仲がとて面白いことです!店内には多くのお客様から頂いたものが沢山飾られていました。

私は初めて伺ったのでとても緊張していたのですが、雰囲気が良く、常連さんが話しかけてくださり、楽しく過ごすことが出来ました!懐かしい感じや店内の照明が温かみを感じられ、安心感がありずっと居たいと思える空間でした。

メニューは沢山あり、どのメニューも共通して、ボリュームたっぷり、価格も安く、とても美味しいです!リーズナブルなおなかいっぱい食べられて食べ盛りの高校生にはピッタリだと感じました。

ところで、なぜ食堂モンキーという名前になったのでしょうか?その理由は、店主の戸谷さんの干支であるサルをそのまま使おうとしていたのですが、お客さんが「去る」ことになりそうなので、サルを英語にして、モンキーという店名になったと聞きとても面白い理由だと思いました。

ぜひ食堂モンキーさんでおなかいっぱい食べてみてください!

(梶谷悠希 写真:井上祥太・福島直太郎)

本庄の大衆食堂「食彩独歩 一喜」

白を基調としたお洒落な外観、遠くからでも見えるおおきな看板に書かれているのは「Brasserie 食彩独歩 一喜」。温かみのある落ち着いた雰囲気の店内は、ジュワジュワと音を立てながら香ばしく焼かれたハンバーグの香りと食事を楽しむ人たちの笑顔で溢れていました。

このお店の自慢は食べられるか心配になるほどのボリューム!私が注文した特製ハンバーグはもちろん、セットのサラダも超ビッグ!本庄で採れた地元野菜をふんだんに使ったサラダは、味はもちろん見た目も鮮やかで豪華でした。最初は食べることができず心配でしたがとても美味しかったので完食できました。ボリュームもあり、味も美味しく、店内の雰囲気も落ち着いているので、家族と一緒に会話を楽しみながらランチをするのもおすすめです。

一度聞いたら忘れない名前。この名前には須永さんの熱い想いが込められていました。「Brasserie」とはフランス語で大衆的な飲食店という意味。たくさんの人に気軽にご飯を食べに来てほしいという想いが込められているそうです。また、このお店は須永さんが独立して作ったお店。彩り豊かな料理が食べられる、お客様が笑顔で帰って行く、そんな場所が作れるよう一歩一歩歩いていこう。こういった熱い想いをお店の名前にしたそうです。(福島直太郎)

まちのルーツと歴史の見かたをリデザインする

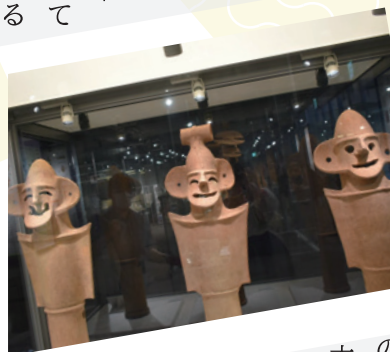
歴史大好き3人組が見つけた、胸が弾む本庄の凄いところ。職人、神社、古墳、どれも無関係そうですが、探ると意外な繋がりが！素敵な驚きで溢れんばかりの本庄の歴史は、一步踏み込むことで、本庄をもっと知りたいという好奇心に駆り立てられる。私達の記事が、そんな好奇心に飛び込むきっかけになってくれたら嬉しいです。

本庄市は隠れた古墳の宝庫

本庄市は埼玉県で何番目に古墳の数が多
いと思いますか？

現在本庄市には600基以上の古墳が確認
されており、これは埼玉県内で熊谷市につい
で2番目の多さです！しかし、1000年以
上本庄市に残っていた多くの古墳が今は色々な
理由で壊されていってしまっており、半数以上
がもう見る事ができなくなってしまっていま
す。私はこの記事を通して古墳の面白さを少し
も多くの方に伝えたいと思い、取材をしました。

早稲田の杜ミュージアムの学芸員、太田博之さ
んに本庄市の古墳や埴輪についてお話を伺いまし
た。皆さんご存知、本庄市のマスコットである「は
にぼん」は、笑う盾持人物埴輪がモチー
フなのです。（写真中央笑う盾持人物埴輪）この埴
輪はなぜ笑っているのでしょうか？実はこの顔は笑って
いながら、威嚇している顔なのです！太田さんによる
と、この埴輪は、盾を持ち、口の部分に白い石がつい
ていて、古墳に入ってくる者に歯をみせて威嚇してい
たのではないかとのこと。つまり、かわいい「はにぼん」
のモデルは、本当はちょっと怖い顔だったのです！
笑う埴輪も素晴らしいですが、太田さん曰くこの博物館
で一番オススメの展示資料は金鑽神社古墳出土の円筒埴輪
だそうです。（写真左）この埴輪には、よく見るとワッフル
の様な網目が付いています。普通の埴輪は縦の線が入って



いることが多いのですが、なぜこの埴輪は網目なのでしょう
か。実はこの網目、「格子叩き技法」という朝鮮半島の土器製
作技術が、埴輪の製作に用いられたことを示すものなのです。
つまりこれは昔本庄市に渡来人が来ていた証拠です。この
ような埴輪は全国でも6基の古墳でしか見つかっておらず、
大変珍しい資料です。

最後に太田さんと私がおすすめる古墳を紹介します。
太田さんのおすすめる古墳は、金鑽神社古墳です。こ
の古墳は、先ほど紹介した円筒埴輪が見つかった古墳で、
本庄市指定文化財として大切に保存されています。虫や
蛇が出る可能性があるため、涼しい時期などに行くこ
とをおすすめします。

私のおすすめる古墳は鷲山（さぎやま）古墳です。
この古墳は埼玉県最古級の古墳と言われている、前
方後方墳です。周辺は落ち着いた雰囲気です、日の光
や風が心地よい場所です。虫や野生動物の心配もあ
まりなく、散歩にもオススメの古墳です。

他にも本庄市にはたくさん古墳があります。畑
や田んぼなどの土が盛り上がった場所は実は古墳
だった、なんてこともよくあります。皆様もドラ
イブや通勤通学の際に古墳を探してみてください。
そして、古墳は壊すことはできても作ることは
できません。生活のすぐそばに古墳があるとい
う素晴らしいさを、大切に守っていききたいです。
（下山千帆 写真：秋山友花）

鳥居をくぐると、神社特有のひんやりと身が引き締まるような空気に包まれました。出迎えてくれた宮司の中山真樹さんは、城山稲荷神社を含む6社の宮司を務めておられるそうです！

私が興味を持ったのは、神社の境内にある御神木です。この御神木は樺の木で、県指定の天然記念物になっています。第二次世界大戦中、樺の木は船材用に沢山切り落とされ、これほどの巨木として残っているケースは珍しいそうです。この御神木の近くに立つと、身の回りの空気がスーッと澄み切っていくように感じました。この樺の木、よく見ると幹の場所によって色が異なっています。中山さんによると、これは450年以上も根を張り続ける樺の木を、薬を用いて保全したためだそうです。

また、境内には白狐像が多く置かれています。これは、養蚕が盛んだった頃、春に城山稲荷神社に供えられた白狐像や繭を住民たちが五穀豊穡や商売繁盛を願って借り、秋に新しい白狐像や新繭を添えて返上する習慣があったためでした。白狐像が置かれていた場所は、狐の表情がさまざまなと日陰が多かったのが相まり、神々しさを感じました。

450年以上も本庄の地に根を張るこの御神木は、人には見えない力が宿っていると思います。これからも本庄の街を見守り続けてくれるでしょう。(新井みず希 写真・秋山友花・新井みず希)



日本中の職人に会ってみたい！

語る姿からは、大きな愛と誇りを感じました。でも細かく、高度な技術と集中力が必要。昔は分業制でしたが、職人減少により今は1人で全工程を行う為、新たな反物を生産するのが難しくなっています。だからこそ、バックやネクタイなどに加工し、また違った形で本庄の魅力を発信する古澤織物さん。その姿から、伝統は守るだけでなく、融合させることも大切だと実感させられました。職人の想いや努力が詰まっている工芸品は、それらを知ることにより輝きが生まれるのだと思います。本物を受け継ぎ、語り継いで行くためにも、私は多くの職人の声に耳を傾け、その魅力を発信していきたいです。(秋山友花 写真・新井みず希)



伊勢崎織を学んでいる私は、本庄市の高校に通う中で興味をもった2人の職人さんに話を聞いてきました。1人目は、4代目篩(ふるい)職人、横村毅さんです。以前からずっと気になっていた、看板がなく、中に木の工芸品が高く積み重ねられている三交通りのお店。そこがなんと、90年以上も続く、本庄で数少ない篩屋だったとは…！たった1人で約30年、篩を作り続けてきた手捌きには無駄がなく、感覚だけで、各パーツがスポツとはまる瞬間、網のしなる鈍い音から空気を断ち切る鋭い音に変わる瞬間など、横村さんが1枚の檜の板を篩に変えていく熟練の技術の凄さに身震いする感動を覚えました。

2人目は、なんと伊勢崎市出身の織手さんで私の大先輩だと判明した古澤織物の古澤あぐりさんです。古澤さんの織は、浮き出るトリックアートのようで、配色・柄共に時代を超えて多くの人を魅了する素晴らしい作品です。あぐりさんがこだわっているのは「一点物」。

アート・デザインに携わるひとたちに出会う

アート、それは自分の中から湧き出るものを表す手段。小さな子供の柔らかな手が握るクレヨン、行事に合わせて飾られる綺麗な装飾品、遠くにあるように思えて身近なところにアートはあります。埼玉県北部に位置する市、本庄、そこでもアートと向き合っている人達があります。

発見！本庄のステキな人

本庄の魅力って何だろう？私は本庄に住みながらも、よく知りませんでした。ですが今回、七高祭をきっかけに本庄のアートについて調べることで、新たな発見がありました。絵は身近にあるけれど、どこか遠い存在。調べていくと、本庄に関わる『ステキな人』を見つけ、インタビュースることになりました。

みなさんは、本庄にイラストレーターの人がいることをご存知ですか？私はそもそも本庄に絵に関わる人などいないのではないかと思っていました。

紹介するのは、本庄に住むがじゅまるさん。本当にステキなイラストレーターさんです。

まずは気になる仕事についてインタビュースしました。基本的にはインターネットで依頼を受けて描くそうです。また描く時のポイントは、自由に思ったままに筆を進め、2〜3時間で描き上げてしまうとのこと。そんな素早く描いてしまうがじゅまるさんですが、意外にも描けない日があるようで、そんな時は画材を変えるなど工夫しているとか。

がじゅまるさんの絵を見てみると中性的な絵が多いように感じます。理由を聞いてみると、「性別をあまり分けたいと思わない。」とキツパリ仰いました。また縛られるのが嫌いというスタンスもあるそうです。がじゅまる



さんの自由に絵を描く姿勢がステキです。

生い立ちについても尋ねてみました。小さい頃から絵が好きで、祖母からセーラムーンの絵をよく褒めてもらったことが嬉しかったそうです。しかし、絵の道には進まず会社員になりました。そんながじゅまるさんが、イラストレーターになったのは出産後に始めたイラストエッセイがきっかけだそうです。これまで絵の学校には通っていないのにも関わらず、好きなことを仕事にしようとする勇気が本当に凄いと思いました。

本庄で活動するのは「人と繋がりがやすい」という理由があるそうです。これは創作する人にとって大切なことだと仰いました。本庄には何も無い、そう思っていた私ですが、がじゅまるさんと繋がることで本庄にもたくさんの方の発見があると感じました。私と同じように、本庄には何も無い。そう思っているあなた！本庄の新たな魅力を発見しませんか？（太田葉子 写真…太田葉子・長濱万智）





高校生と、文化祭と、アートと

皆さんはベリーペイントを知っていますか？ベリーペイントとは、妊婦さんのお腹に絵を描いて写真に残すことです。高校生にとってベリーペイントはまだ身近な存在ではないかもしれませんが、妊婦という限られた時間を写真に残すことはとても素敵だと思ひ、BOBSPANTのBOBさんにお話を伺いました！

BOBさんは幼少期から絵を描くのが好きで、絵に関わる仕事をしたいと思ひ、出産後にベリーペイントを始めたそうです。妊娠・出産を経験しているBOBさんはご自身の経験を活かし、ベリーペイントをしながら、妊婦さんの悩み相談に乗ったり、勇気づけたりしています。お話を伺っていく中で感じたBOBさんの優しく温かい人柄が、妊婦さんの不安を解消し、リラクセスさせているのだろうと強く思いました！

撮影スタジオでもある緑が素敵なお庭のあるアトリエで、妊婦さんと丁寧に会話するBOBさんは、お客さんに「思い出に残る出来事になりました！」と言ってもらえるのがとても嬉しいそうです。ベリーペイントは限られた時間でできるとても貴重なことなので、大切にしておっしゃっていました。

また、私達高校生にやりたいことをやるということと、命は大事ということをおっしゃっていました。やりたいことは自分が一番知っているし、自分の気持ちを盛り上げるきっかけにもなります。また、BOBさんは命を大切にしたいそうです。「目の前のごことを真剣に取り組んでいけばその先に何かみえてくることもある」とおっしゃっていました。

取材を通して、本庄市にベリーペイントという素敵なことをしている方がいることを初めて知ることが出来ました。妊娠した時、ぜひBOBSPANTで素敵な思い出を残してみたいかですか？
(渡邊倅)

高校生にまつわるアートについて紹介したいと思います。私達高校生

にとってとても大きなイベントのひとつ、文化祭。今年に入り、数年ぶりに文化祭

を開催する学校が増えてきました。そこで、本庄第一、本庄高校、早稲田本庄の文化祭で門制作や美術を担当している学生たちにお話を伺ってみました。

本庄第一の文化祭は「桐華祭」といい、今年から美術部と生徒会が協力して門制作をしています。最初に出した図案が通らず、試行錯誤しながら制作にあたったエピソードを聞くことが出来ました。美術部の学生達に「絵は好きですか」と聞いたところ、皆さん一様に「好きだ」という答えが返ってきました。定期的にデッサン会を開いていることや美術部に力を入れていることなど教えて下さり、絵そのものと、美術部全体に対する気持ちが伝わってきました。

本庄高校の文化祭「柏樹祭」の門は生徒会が制作しています。その年に流行しているアニメなどからデザインしているそうです。12枚の大きなベニヤ板にペンキを塗ったり、人のイラストを描くのに影が難しかった点など大変なことも多くあったそうです。門を完成させるために普段関わることのないさまざまな人と繋がることもでき、文化祭、アートを通して貴重な経験ができたそうです。

早稲田本庄の文化祭「稲稜祭」は毎年テーマに合わせ巨大なステンドグラスを制作し入口の窓に装飾していたり、階段アートや壁にイラストを貼ったりしています。美術に関することは実行委員の美術チームが行っていて、夏休みの予定を調整しながら作業をしています。「限られた時間の中で作業を進めていくことは大変だが、その分完成したときのやりがい大きい」とのこと、なにより制作を通して学年を超えた繋がりを持つことも嬉しいことのひとつだそうです。

また、「このコロナ禍で文化祭をやる意義とは」という質問をしてみました。それぞれ答え方は違えど、根底にある思いは「楽しさを友人達と共有し、思い出に残したい」というものでした。短い高校生活、楽しいことだけでなく、苦い思い出も生まれることだと思います。しかし、だからこそ人生において貴重な体験の場となるでしょう。各高校の文化祭が全体公開として開催されたときには、ぜひ足を運び高校生の想いが詰まった「アート」を感じてみてください。(長濱万智)

素敵な場所と美味しい場所・ひとに会いに行く

学生や子どもが集う寺子屋や、実際に食べて美味しかった和菓子屋さん、製麺工場の方々にお話を伺ってきました。また、お店の風景なども撮影させていただきました。より多くの方々に利用していただいたり、市外の方にも知っていただけるよう、お店を紹介しています。

みんなの居場所



みんなの居場所を作っているNPO法人ほんじょう寺子屋という団体があると聞き、代表の横尾さんと副代表の山藤さんにお話を伺いました。ここでは遊んだり勉強をしたりと様々なことができ、多くの子供たちが楽しく遊んでいたのが印象的でした。

この寺子屋内には駄菓子屋があり、その特徴として、自分で料金の計算をして店員さんのところへ持っていく、購入するというルールがあります。横尾さんによると「算数の勉強にもなるし、お金の使い方も勉強できていい」とのこと。山藤さんは「お金を持っていなくても気軽に来やすいし、学校と家以外の居場所にしてほしい」と話してくれました。雰囲気がよく、たくさん笑顔で溢れている店内は何回も来たくなる場所です。

実はNPO法人ほんじょう寺子屋は学生がやりたいことを実現するのが目的だそうで、学生たちが企画した寺子屋体験など、様々な活動をしています。活動に参加しているNPO法人の社員は13人、ボランティアとして参加している学生は50〜60人いるそうです。「自分たちが楽しめない小学生の参加者に楽しさが伝わらないから、自分たちが一番楽しむことが大切」とのこと。みんなの居場所に学生のみならずぜひ行ってみてください！

(山口結愛写真・青木大輝)

歴史ある和菓子



中山道沿いにあるふくしま製菓舗さん。現在の店主の福島さんは4代目で、とても歴史のあるお店です。お店に入った瞬間に色鮮やかで、たくさん並ぶお菓子達に目を奪われました。

ふくしま製菓舗さんの和菓子は本庄市内の高校の茶道部でお茶菓子として使われているそうです。数多くあるお菓子の中には、作るのに時間がかかり前日から仕込みをする必要があるものも。その中で最も昔からあるお菓子は、型を使って

7代に渡り受け継がれてきた製麺所

「ふくしま製菓舗」の隣にある製麺所、『野口製麺工場』。大正五年創業、今ではなんと7代目の歴史ある麺の専門店だそうです。昔は廃業を考えていたということもあり、麺の種類を少なくしたそうですが、一番人気の細麺は今でも多くの人が愛されています。

野口製麺工場さんの表の窓にはなぜか中野屋製麺工場と書いてあり、その理由を伺いました。野口製麺工場の初代の人が長野から本庄に出てきて、資産家の中谷半兵衛さんから本庄に土地を貰ってお店を始めたので、中谷の中と野口の野を取って中野屋となったそうです。

そんな歴史ある場所を守り続ける、野口製麺工場7代目の野口誠さんを紹介します。

野口さんは、テレビ番組の「なんでも鑑定団」がお好きだったり、ポストン美術館に飾られるような作品を手に入れたりするほど、骨董品や芸術がお好きな方です。なんと所ジョージさんのテレビ番組が野口製麺工場さんに骨董品の取材に来てくださったこともあったそうです。

そんなエピソードを実際に伺っていると、野口さんが野口製麺工場の古き良き建物をとても大切にしているのは、そういった骨董品や芸術が好きだからという背景があるということがわかりました。

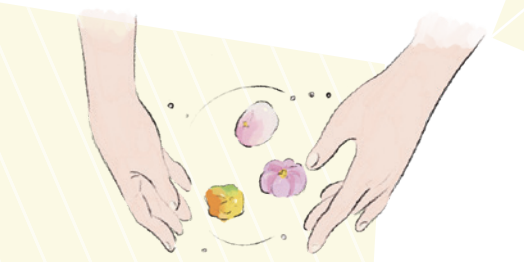
最後に、野口製麺工場さんの古き良き建物や地元の方々に愛され続けている細麺など、これからは変わらない魅力的な場所であって欲しいなと思いました。（砂川駿 写真・青木大輝）



作るもので、その型は戦前・戦後からあるだけに、店一番の財産なんだとか。

福島さんのオススメのお菓子は、季節の練り切りだそうです。練り切りは作るのにとっても繊細な技術が必要とされているので和菓子の中でも特に職人の技が試されるもので、その技術を身につけるのに何年もの修行が必要です。私も練り切りが和菓子の中で一番好きなのでとても興味深く感じました。練り切りは季節に合わせてものを作っているそうです。お伺いしたのは7月末だったので、夏の季節を表現した練り切りが多くありました。とても綺麗なのを見て楽しむもよし、食べて楽しむもよし。ぜひそんなお菓子で季節を楽しんで欲しい、というのが福島さんの願いなんだそうです。

最後に、和菓子にはそれを作る多くの時間と作り手の沢山の技術と思いがあったのだと、お伺いして感じました。ぜひ皆さんも季節を感じ、ふくしま製菓舗さんのお菓子を手に取ってみてください。（青木大輝）



広報紙
制作
チーム



川上 桔平 鹿島 渉 小田 琳久 木村 友希 小林 鈴奈 磯田 隼



須賀 瑚子 山口 結愛 青木 春樹 梶谷 悠希 長濱 万智 渡邊 倅 太田 梨子



青木 大輝 砂川 駿 井上 祥太 福島 直太郎 下山 千帆 新井 みず希 秋山 友花

七高祭 2022 プロジェクトで広報紙・動画制作に関わった高校生制作メンバーを紹介します！



後藤 海翔 横瀬 穂香 青木 千紗



深田 舞桜 井下 七実 荻野 悠翔 木村 壮吾 岩田 理央 吉富 恵梨 黒澤 大翔



浅見 健 田端 愛莉杏 浅見 柊太 山本 直弥 平良 ダニエラ 水野 杏

動画
制作
チーム



武井 日菜花 中村 駿斗 中林 工 石川 裕己 本多 すみれ 有坂 玖琉美 長谷川 彩香



齋藤 昂佑 柴崎 比慮和 長田 莉桜 加藤 龍聖 野邊 愛佳 橋本 爽良

2022 別冊版

11

発行/本庄市
編集/本庄市役所企画財政部広報課
見やすくて読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインソフト
FONT を採用しています。

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3-5-3
☎0495-25-1111 FAX 0495-21-8499 ✉kouhou@city.honjo.lg.jp
https://www.city.honjo.lg.jp/
※広報紙ほんじょうは、ホームページでもご覧になれます。



埼玉県のマスコット「コバトン」
ふるさと創造資金を活用しています。